

第1学年 道徳学習指導案

に組 男子 17 名 女子 18 名 計 35 名
指 導 者 永 田 佑

1 主 題 名 どうしていけないの

4-(1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切に使う。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに約束やきまりの大切さを理解し、学校生活をはじめとする身近な約束やきまりを守ろうと努力してきている。しかし、自己中心的な考えや外への欲求などから、約束やきまりを守れなかったり、みんなが使う物を大切にできなかったりすることもある。このようなことから、この期の子どもたちに、みんなの物も自分の物と同じように大切に、約束やきまりを守ると楽しい生活につながることを理解させ、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとする態度を育てる必要がある。

そこで、本主題では、公共物を自分勝手に使ったために、他者に迷惑をかけてしまった場面で生じる心情や心情の変化を、自らの体験場面と重ね合せながら追究する活動を通して、約束やきまりを守ることの大切さを理解し、みんなが使う物を大切にしていこうとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとする生き方は、自分だけでなく他者や身近な集団の生活を楽しく気持ちよく過ごせることに繋がることを実感し、これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとする生き方を深く追究していく学習へと発展していくことになる。

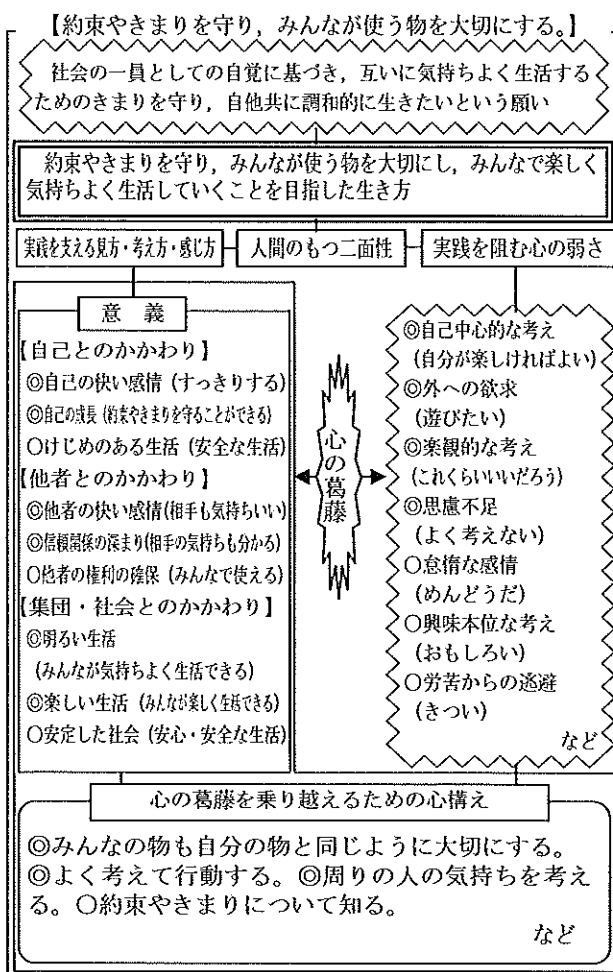
(2) 指導の基本的な立場

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとするということについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることは、みんなが使う物も自分の物と同じように大切にしながら、みんなが気持ちよく生活するための約束やきまりを守ることととらえることができる。

ここでは、社会の一員としての自覚に基づき、互いに気持ちよく生活するためのきまりを守り、自他共に調和的に生きたいという願いを基に、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切に、みんなで楽しく気持ちよく生活していくことを目指した生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることで、自分の気持ちがすっきりしたり、周りに迷惑をかけずに相手も気持ちよく生活できたりすることや、さらに、みんな



◎は重点的な学習内容

なが楽しく気持ちよく生活できることなどを理解させる必要がある。

その一方で、約束やきまりを守ろうと思いながらも、「自分が楽しければよい」といった自己中心的な考え、「遊びたい」といった外への欲求などの心の弱さからなかなか実践できないことがあることにも気付かせるようにする。そして、それらの弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには、みんなの物も自分の物と同じように大切にすることや周りの人の気持ちを考えることなどの心構えをもつことが大切であることも理解させる必要がある。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物資料「きいろいベンチ」（文溪堂）を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

雨上がりの公園で友達と一緒に紙飛行機を飛ばしている主人公のたかしが、もっと紙飛行機を遠くへ飛ばしたいという思いを抱く。友達の提案に賛同したたかしは、ベンチに乗って夢中になって紙飛行機を飛ばす。しばらくして、公園にやってきた小さな女の子とおばあさんが、たかしたちによって汚されたベンチを見て困惑している様子に気付く、たかしは友達と顔を見合わせるという内容である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、たかしの心情に十分に触れさせるために、教師が挿絵を持ち、動きをつけて提示しながら資料を範読する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせ、そこでの心情とたかしとの心情を重ね合わせるようにし、たかしの心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず切実感のある自分の考えていきたい問題を追究していくために資料の一読から、追究場面を焦点化させる（計画性の向上）。次に、ベンチの上から紙飛行機を飛ばそうと友達に誘われた時のたかしの心情に共感的に追究させる。そして、汚れたベンチを見て困惑している女の子とおばあさんの様子を見て、たかしが友達と顔を見合わせている場面で、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることにかかわる意義や心構えを多面的に追究させる（責任感の高揚）。その際、中心となる意義・心構えについて、自分の生活の経験と重ね合せながら重点的に対話活動を行う（協調性の向上）。さらには、授業の中で感じたことを今までの自分の生活と重ね合わせて考えさせてまとめることを通して、生活場面での意欲や態度を高めるようにする（自己肯定感の醸成）。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切に、みんなで楽しく気持ちよく生活していくことを目指す生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが豊かな自分の生き方を追究し続けることにつながると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとするということにかかわる経験や、実践を阻む心の弱さ、実践を支える見方・考え方・感じ方（意義・心構え）等についての認識は以下のとおりである。

〔表1〕約束やきまりが守れた経験（総反応数40）とその時の感情（総反応数38）

経験	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
順番を守って使うこと（遊具、水道）	15	みんながいい気持ちになる	13
授業開始前に着席	7	よく考える	11
遊んだあとの片付け	6	がんばって守りたい	10
教室や廊下で静かに過ごすこと	5	自分が使ったものだから	2
交通ルール	3	みんなに優しくする	2
話をしっかりと聞くこと	2		
トイレのスリッパ並べ	2		

〔表2〕約束やきまりが守れなかった心情（総反応数42）

心の弱さ	反応数(人)	心の弱さ	反応数(人)
外への欲求（遊びに夢中）	18	楽観的な考え（これくらいいいだろう）	3
自己中心的な考え（急いでいる）	10	興味本位な考え（おもしろい）	2
思慮不足（分からない）	8	怠惰な感情（やりたくない）	1

〔表3〕 実践を支える見方・考え方・感じ方（意義・心構え）についての認識

総反応数 61

見方・考え方・感じ方			見方・考え方・感じ方			見方・考え方・感じ方		
見方・考え方・感じ方			見方・考え方・感じ方			見方・考え方・感じ方		
対自己	うれしい・すっきりする	8	対他者	気持ちいい	10	対集団・社会	みんなが楽しい	10
	次も守ることができる	8		気持ちがわかる	10		みんなが気持ちいい	7
	安全な生活	2		仲良く使うことができる	3		安心・安全な生活	2
	楽しい生活	1						

〔表1〕から分かるように、本学級の子どもたちは、毎日の学校生活や登下校など、身近な生活場面の中で、約束やきまりを意識することが多く、「みんながいい気持ちになる」「よく考える」といった感情をもっていることが分かる。このことは、小学校に入学したばかりの子どもたちが、生活場面の变化や広がりなどから、約束やきまりについて意識し、しっかりと守りたいという意欲が高いためであると思われる。その反面、〔表2〕から、「遊びに夢中になっていた」「急いでいる」「分からない」といった感情から、約束やきまりを守ることが大切であると分かっているにもかかわらず、守れないことがあることにも気付いていることが分かる。また、〔表3〕から、約束やきまりを守ることによって「自分だけでなく、相手や集団・社会にもいい影響を与える」という意義を感じている子どももいることが分かる。

これらの実態から、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることのよさを実感させるとともに、集団や社会にかかわる体験との関連を図りながら、「みんなの物も自分の物と同じように大切にすること」「よく考えて行動すること」に重点的に気付かせていく必要がある。

一方、道徳の時間において、本学級の子どもたちは、問題場面に際して登場人物の心情について考えていこうとする姿は見られるが、自分の生活体験を想起し、登場人物の心情を自らの内面と重ね合わせて考えたり、これまでの自分自身を振り返ったりするまでに至っていない。そこで、登場人物の心情を追究しやすくするために視覚的に訴える工夫をしながら、具体的な生活場面を想起させたり、振り返りの活動の方法を工夫したりしていく必要がある。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることの生き方の意味やよさを友だちと協力しながら（協力）、主体的に追究すること（参加）を通して、実感を深める中で、子どもたちがこれまでの生活の中で体験して感じてきた道徳的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していく（尊重）ようにしたい。

ア 切実な問題意識をもたせるために（見通し）、子どもたち自身が捉えている約束やきまりはどんなものがあるか、実際の生活場面で約束やきまりが守れているかを考えさせ、疑問や矛盾から考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ たかしの心情や心情の変化に共感させたり、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることは、どんなよさがあるのかを追究させたりするために（多面・総合、吟味）、ここでの見方等について十分に深めたり広げたりできるようにする。そのために、みんなが使うきいろいベンチを汚してしまったことに気付いたたかしが、友だちと顔を見合わせる場面に焦点化し、役割演技を行う。その際は、体験場面での自らの内面と重ね合わせながら対話活動を行うために（コミュニケーション）、黒板に提示された顔を見合わせている二人の後ろ姿の間に自分のシルエットを提示し、二人に対してアドバイスをおくる場を設定する。

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活とのつながりを感じ、これからの生かしていこうとする意欲を高めさせるために（尊重）、たかしの生き方を基に、自分の生き方を振り返らせる。その際、書く活動を取り入れ、自分の生き方の中で大切にしたい気持ちや考えをまとめさせたり、そのことを実際に生かそう場面を考えさせたりする。そして、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることについての自分自身のとらえの変容を意識させるようにする。

3 本 時

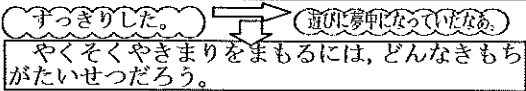
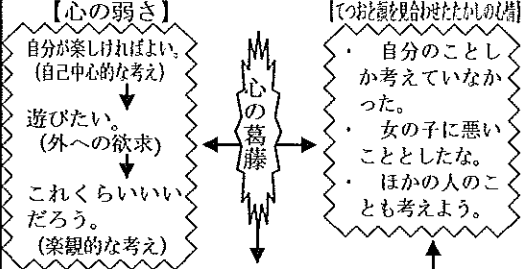
(1) ねらい

- ア 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることにかかわる自分自身の生き方を見つめ、みんなが使う物も自分の物と同じように大切にしていこうとする気持ちを高めることができる。
- イ 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることにかかわる見方・考え方・感じ方を自らの体験場面での内面と重ね合わせながら考え、表現することができる。
- ウ 自己中心的な考えや外への欲求などの心の弱さから、約束やきまりを守ることができなかったことに気付くとともに、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることの大切さを理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

重点とする意義・心構えについて追究させるために（吟味）、具体物を効果的に活用しながら、主人公たちにアドバイスする役割演技を基にして話し合わせ、その理由を明確にさせる問い返しを行う。その際、自らの体験場面と重ね合わせながら考えさせるようにしたい。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 約束やきまりを守れたときや守れなかったときの気持ちを発表し、考えていきたい問題に気付く。 	(分) ↑ 7 ↓	○ 切実な問題意識をもたせるために（見通し）約束やきまりに対する考えや思い、実際の生活での心情を發表させ、それらの矛盾から、考えていきたい問題に気付かせるようにする。 ○ 資料に入り込み、追究したい場面を焦点化しやすくするために（参加）、資料の中心となる黄色いベンチを黒板の中央に提示し、「公園のベンチを使うときには、どんな約束やきまりがあるか。」と問う。
さぐる	2 資料「きいろいベンチ」を読み、考えていきたい問題について話し合う。 (1) たかしやつお、おばあちゃん、女の子の言動や心情、心情の変化について感想をもち、發表する。 (2) たかしの心の弱さや、「はっ」として、てつおと顔を見合わせたときのたかしの心情について話し合う。 	14	○ ベンチの上から紙飛行機を飛ばそうとてつおに誘われ、遊びたい気持ちと、してはいけないという気持ちで葛藤しているたかしの心情に共感させるために、「たかしは今、どんな気持ちだろう。」「もし、自分だったらどうするか。」と問い、約束やきまりが守れなかった時の経験を想起させ、自らの体験場面での内面と重ね合わせて考えさせる。 ◎「顔を見合わせながら、2人はどんなことを考えていただろう。」
見つける	【意 義】気持ちがすっきりする→約束やきまりを守ることができ→相手も気持ちいい→相手の気持ちも分かる→みんなが気持ちよく生活できる→みんなが楽しく生活できる→みんな安心して生活することができる 【心構え】みんなの物も自分の物と同じように大切に。よく考えて行動する。周りの人の気持ちを考える。約束やきまりについて知る。 など	14	○ 「みんなだったら、2人にどんなことを教えてあげられるかな。」 ○ 自らの体験場面と重ね合わせて考えさせるために（参加）、黒板に掲示した顔を見合わせている2人の間に自分のシルエットを掲示する。 ○ ここでの意義・心構えについて話し合わせるために（吟味）、たかしたちに対して自分だったらどんなアドバイスをするかを具体的に考えさせて役割演技を行う。その際、「どうしていけないの。」と、理由を明らかにさせる意図的な問い返し発問を行う。
深める	(3) たかしの生き方を振り返り、自分と友だちの考えで感じたことや考えたことを發表し合う。 3 学習したことを振り返り、約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にするためには、どんな気持ちをもつことが大切か、自分なりの考えをまとめる。 約束やきまりを守って、みんなが使う物を大切にすると、みんなが楽しくすごせるんだな。	8	○ 考えたアドバイスを發表し合うことを通して、自分の考えをまとめていけるようにするために（コミュニケーション、協力、尊重）、友だちの多様な見方・考え方・感じ方に触れさせる。 ○ 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることについて深めたり広げたりした見方等を基に、自己の生き方について振り返らせる。その際、これまでの自分とこれからの自分を重ね合わせながら、生かしていきたい価値について考えさせる。
見通す	4 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすることにかかわることについて教師の説話を聞く。	2	○ 学習したことについての感想をもち、これからの生活の中で、みんなの物も自分の物と同じように大切にしていこうという期待感をもたせる。